

「テレワーク」の導入で障がい者の通勤で生じた課題を解決！！

# 皆生タクシー株式会社 (その1)

皆生タクシー株式会社は、障がい者雇用に積極的に取り組まれており、2021年から「テレワーク」での障がい者雇を開始されました。障がいのある従業員が、自宅で社内勤務の従業員とあたかも同一フロアで作業しているかのように、チーム作業で業務がされています。皆生タクシーで初めて「テレワーク」での障がい者雇用に取組まれた経緯を、営業企画の村上課長にお聞きしました（次号では実際のテレワーク業務についてご紹介致します）。



皆生タクシー株式会社

## 【会社概要】

- 所在地：鳥取県米子市旗ヶ崎2207
- 事業内容：旅客運送業
- 従業員数：92名（内障がい者数：3名）

## 【近年の取組】

- ・「感謝、そして親切、丁寧な人格を」、「安全輸送責任」、「政策提言と実現力」の3つの経営理念で、日々接客サービスに取り組まれています。最近では珍しい「自動でないドア」で、乗務員が車外に出てドア開閉を行い、感謝と安全確保を日々実施されています。
- ・インバウンドの増加で外国人観光客のタクシー利用も多くなり、言葉の壁がネックとなりましたが、昨年からは外国人ドライバーも加わりました。フランス人ドライバーの「ラミエル・セヴリン」さんは、母国で9年間のタクシー乗務員の経験もあり、タクシードライバー不足解消に向けて、新たな取り組みにもチャレンジしておられます。



フランス人ドライバーのラミエル・セヴリンさん

## ■まずはじめに、障がい者雇用に取組まれたきっかけを教えてください。

タクシーを利用される方の中には、手足の不自由な方々も沢山いらっしゃいます。そういったお客様の手助けをするというのが、我々タクシー会社の使命でもあり、そういった障がいのある方を雇用することも、我々の社会的な使命だと考え、2020年から障がい者雇用に取組んでいます。

## ■「テレワーク」に至った経緯を教えてください。

身体障がいのある方（車イス利用の方）を採用した当初、社内で業務を担当してもらったため、通勤は従業員が送迎をしていました。しかし、出勤や退勤をどちらかに合わせねばならず、どちらかが残業することもありました。そのような通勤で生じた課題解決のため、2021年度から「テレワーク」に取り組みました。



皆生タクシー株式会社  
営業企画 課長 村上 耕一さん

## ■「テレワーク」への移行で苦労されたことをお聞かせください。

まずはテレワークをして頂く場所の環境整備です。自宅のネット環境が整備されていなかったことから、鳥取県の「テレワーク導入支援補助金」を活用し、ネット環境を整備しました。その次に課題となったのが勤怠管理をどのようにするのか。システムのログインで出勤とするのか、またパソコン画面で本人確認ができれば出勤とするのか。そしてトータル勤務時間をどのように管理していくのか等、色々検討しましたが、それを解決するクラウドソフトを見つけることができ、そのソフトを導入することで勤怠全般を管理できるようになりました。

## ■現在の状況はいかがですか。

事務所のモニターと音声を通じて、テレワーク先の細木さん（身体障がい）とリアルタイムで連絡を取り合いながら仕事をしています。

テレワークでは意思疎通が難しいと聞くこともありますが、同一システム上で作業しており、同じフロアで働いているような感覚です。テレワークでありながら一体感のある職場環境が構築できている印象です。また、テレワーク用の勤怠管理アプリもあり、安定した勤務管理も行えています。



村上課長

モニター画面で細木さんと  
連絡される本社の村上課長



モニター画面では、細木さんと  
本社は一緒に作業されています

細木さん

村上課長

障がい者雇用を検討される企業、また就労を希望されている障がい者にとって、公共交通機関での通勤が可能であるかは雇用・就労が可能か判断する際の重要なポイントとなることが多いです。コロナ禍で認知が進んだ「テレワーク」ですが、障がい者にとって通勤の負担を解消できるだけでなく障がい者雇用に当たっての企業の課題解決につながるようなようです。障がい者雇用を検討されている企業は、テレワーク導入も検討されては如何でしょうか。